

要 旨

本研究は、総合的な学習の時間において、積極的に人とかかわり、自己の生き方への考えを深めていこうとする生徒の育成を目指して実践を行ったものである。伝え合う場において、相手を意識した伝え合い方を考えさせるとともに、いろいろな見方や考え方への気付きをもたせ、自己の考えを深めていけるように指導の在り方を工夫した。また、凝縮ポートフォリオの作成を通して単元全体を振り返らせ、自己の成長に気付かせるようにした。その結果、生徒は、地域の働く人から学んだことを生かし、自己の生き方への考えを深めていくことができた。

〈キーワード〉 ①相手を意識した伝え合い ②いろいろな見方や考え方 ③自己の生き方

1 研究の目標

総合的な学習の時間において、人とかかわる体験的な学習を通して、伝え合おうとする意欲や態度をはぐくみ、自己の生き方への考えを深める指導の在り方を探る。

2 目標設定の理由

子どもは、自然や社会とかかわる中で、驚きや感動に出会ったり、困難に直面し葛藤したりしながら成長する。そして、体験を通して学んだことを生活と結び付けて生かしたり、人とよりよくかかわる力を高めたりしていく。人との直接コミュニケーションの機会が少なく、人間関係の希薄化が問題となっている現代の社会において、人と積極的にかかわりを持ち、豊かな人間関係を築くことのできる伝え合う力の育成は重要である。

「自己の生き方について考えることができるようにすること」がねらいとして示されている総合的な学習の時間では、その学習の展開において、体験的な学習を取り入れることが重視されている。一定の知識を覚え込ませるのではなく、学ぶ価値のある体験を通して、考えを深めるとともに、自己の生き方への気付きを大切にするような学習が求められている。

そこで、本研究では、地域の人々とかかわる体験的な学習を通して、伝え合おうとする意欲や態度をはぐくみ、自己の生き方への考えを深めていけるような指導の在り方を探ることとした。人とかかわる体験が自己の生き方に結びつくものとなるためには、体験活動で学んだことを生かし、自分の考えを深めたり広げたりする伝え合う場を適切に設定することが重要であると考え。伝え合う場において、いろいろな見方や考え方に気付かせ、自己の考えを深めていけるように工夫すれば、人とかかわることで自己を高め、豊かな人間関係を築いていこうとする生徒を育てることができるのではないかと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

伝え合う場において、いろいろな見方や考え方への気付きがもてるような指導の工夫を行えば、積極的に人とかかわり、自己の生き方への考えを深めていこうとする生徒を育てることができるであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 文献などを基にした本研究に関連する理論研究
- (2) 生徒の実態調査と仮説に基づいた指導案の作成

(3) 授業の実践と生徒の変容を基にした仮説の有効性の検証

5 研究の実際

(1) 伝え合う力についての理論研究

充実した生き方ができるためには、様々な人々と豊かな人間関係が築けるようなコミュニケーションが必要である。人は、自分とは違う思いや願いをもって生きている人々に出会い、コミュニケーションをとることによって新たな見方や考え方に気付き、それが内面化されることで自分の世界を広げていくことができる。しかし、最近の中学生には、自分の考えを伝えることを面倒がったり、話しても伝わらないとあきらめたりしている子どもたちも見られる。その要因について、井上裕吉は、共通して言えることとして次のように述べている。

自己をとりまく人間（他者）と、親しく話し合う、聞き合うことの体験不足、話すこと、聞くこと、うなづくこと、それ自体の喜びや充実感を、心の奥深くもちえなかった、ということである。⁽¹⁾

つまり、伝え合う体験の不足に加え、その喜びや充実感をもちることができなかつたために、自分の思いを伝えようとする意欲をなくしているというのである。このような現状において、伝え合おうとする意欲や態度をはぐくむためには、伝え合いたいという思いがもてるような体験的な学習や、伝え合うことの喜びや充実感を味わわせるような学習の場の工夫が必要であると考えられる。

(2) 自己の生き方についての理論研究

総合的な学習の時間の最終的なねらいは、「自己の生き方を考える」ことであると考えられる。生き方を考えるとは、学習対象に対する見方や考え方を広げたり深めたりして、自分なりの考えや意見をもつことであるとともに、学習を通して自分の成長に気付き、自信をもったり、将来への夢や希望をもったりすることであると考えられる。そこで、この単元における「自己の生き方を考える生徒の姿」を表1のように考えた。

表1 自己の生き方を考える生徒の姿

- ① 自分なりの考えや意見をもつ
 - ・ どの職業においても働く上での工夫や努力が大切であることに気付いている。
 - ・ 働くことは大変であるが、楽しさや喜びがあることや生きがいをもって働くことの尊さに気付いている。
 - ・ 地域の人たちの働く姿に感動したり、感謝の気持ちをもったりしている。
- ② 自分の成長に気付き、自信をもつ
- ③ 将来への夢や希望をもつ

(3) 研究の基本構想

本研究では、調査・体験活動で学んだことを伝え合う場において、いろいろな見方や考え方への気付きがもてるような指導の工夫を行うことにより、伝え合おうとする意欲や態度をはぐくみ、自己の生き方への考えを深める総合的な学習の時間の在り方を探るため、研究の基本構想を図1のようにとらえた。手立てとしては、相手を意識した伝え合い方を考えさせる指導と伝え合う場の設定を工夫することを考えた。

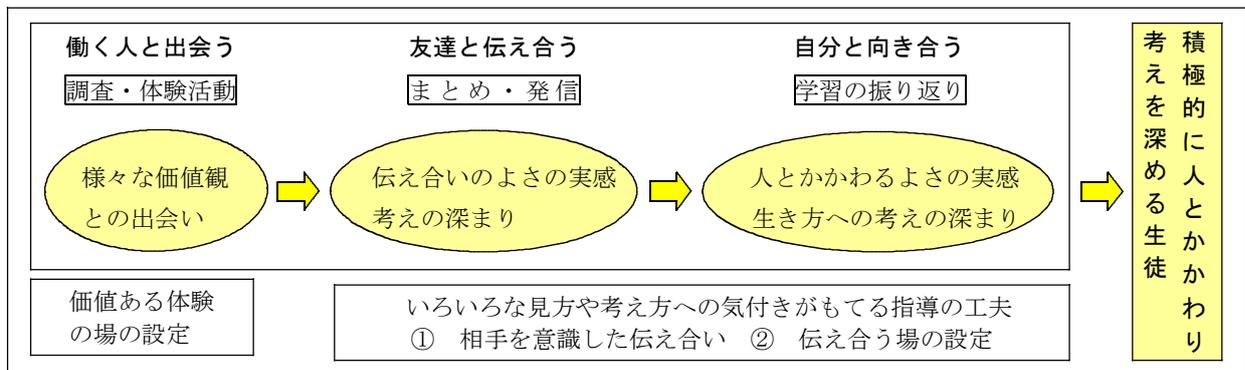


図1 研究の基本構想

(4) いろいろな見方や考え方への気付きがもてる指導の工夫

ア 相手を意識した伝え合い方を考えさせる指導

成果発表会が、いろいろな見方や考え方に気付き、考えを深めるような学びの場となるためには、生徒が互いに相手を意識した伝え合いができることが大切である。そこで、ポスターの編集会議やプレ発表会を行い、相手に伝わるような表現方法について考えさせることにした。発表の仕方や聞く態度については、相互評価を行わせることで、具体的な改善点について話し合わせることができると考えた。また、よい点を中心に評価させることで、自信をもって発表会に臨ませたいと考えた。

イ 伝え合う場の設定の工夫

地域の人々の生き方から学ぶ単元作りを行い（図2参照）、地域の人々とかかわる体験的な学習の場を仕組んだ。地域の働く人に興味をもたせた後、自分の追究テーマを設定させ、職場での調査・体験活動を通して、様々な価値観や多様な生き方への気付きがもてるようにした。そして、情報交換会や発表会（ポスターセッション）などの伝え合う場を設定し、調査・体験活動の成果を伝え合わせることで、更にいろいろな見方や考え方に気付かせ、自己の考えを深めさせたいと考えた。また、伝え合うことの喜びや充実感を味わわせることで、積極的に人とかかわっていきこうとする生徒の育成を目指した。最後に、単元全体を振り返らせ、自分の成長に気付かせたり、生き方への考えを深めさせたりするために、凝縮ポートフォリオを作成させることにした。そして、地域の働く人々から学べたことに感謝し、人とかかわるよさを実感できるような単元にしたいと考えた。

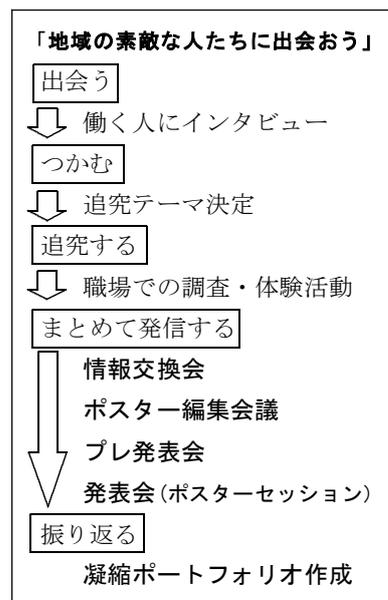


図2 単元計画（全35時間）

(5) 授業の実際

ア 授業実践の流れと生徒の様子

中学2年生の「地域の素敵な人たちに出会おう」という単元で授業を実施した。その授業の流れと生徒の様子（伝え合いへの意欲や態度）について表2に示した。

表2 授業実践の流れ（対象生徒：中学2年生 72名）（---：伝え合いへの意欲 —：態度）

学習活動	学習内容	指導の手立て	生徒の様子
授業実践1 情報交換会 (24/35時)	調査・体験活動の成果をまとめて友達と情報交換をする。	自分の調査・体験活動の成果をワークシートに簡単にまとめさせた後、情報交換する内容を提示し、同じグループの友達と練習した後、違うグループの友達と情報交換させる。	友達の体験の様子に興味を示し、 <u>楽しく伝え合う様子</u> が見られた。また、「 <u>自分の体験を伝えたい。</u> 」「 <u>友達の体験を聞きたい。</u> 」...という意欲が高まった。
授業実践2 ポスター編集会議 (25/35時)	活動の成果が伝わるようなポスターを考える。	見やすい書き方のポイントについて考えさせた後、何を伝えたいかを考えさせ、タイトルや内容について話し合わせる。	グループの友達と <u>積極的に話し合い</u> 、相手に見やすいポスターについて考え、タイトルを工夫したり、内容を考えたりしていた。
授業実践3 プレ発表会 (30・31/35時)	互いの発表を評価し合い、発表の仕方を改善する。	グループ同士で、発表の仕方や聞く態度について、評価させる。それを基にグループで改善点について話し合わせる。よい点を中心に評価させ自信をもたせる。	<u>相手に伝わる表現や聞く態度の大切さに気付き</u> 、改善点を考えていた。また、よい点を評価してもらうことで、発表会への <u>自信や意欲</u> がみられた。

授業実践4 発表会 (ポスターセッション) (32・33/35時)	自分の体験を伝える。そして、友達の体験から学ぶ。	あらかじめ発表に対する質問を考えさせておく。また、発表に対する感想を記入させた後に意見交換タイムを設ける。 参観してもらった事業所の方や保護者から感想を伝えてもらい、活動の成果を評価してもらおうようにする。	自信をもって堂々と発表する様子が見られた。友達の体験発表について積極的に質問したり、自分の感想を述べたりして、自己の考えを深めていこうとしていた。自分たちの活動を認めてもらい、喜びや充実感を味わっていた。
授業実践5 凝縮ポートフォリオの作成 (34・35/35時)	凝縮ポートフォリオを作成することを通して単元全体を振り返り、成長した自分に気付く。	今まで作成してきたプリントや資料を見ながら記入することで学びの跡が分かるようなワークシートを準備する。友達や保護者、教師がその生徒の成長したところを記入する欄を設ける。	友達と相談しながら単元を振り返ったり、互いの成長を見付けて、凝縮ポートフォリオに記入し合ったりして、自己の生き方についての考えを深めていた。

イ 相手を意識した伝え合いの指導（相互評価）

プレ発表会で行った相互評価では、発表の仕方や聞く態度についての評価の視点を4つ示しておき（表3参照）、グループ同士で評価させた（表4参照）。その後、相手グループが記入した評価用紙を読ませ、自分たちのグループの改善点について話し合わせた。「大事な部分をまとめて分かりやすく話そう。」、「声の大きさを考えることや間を取ることも大事だ。」、「資料を増やしたり、質問に備えておこう。」などの意見が出された。そして、どのグループも、発表会へ向けて、「伝えたいことが分かるように話そう。」、「発表する内容を暗記して、相手を見て話そう。」などの目標を設定することができた。

ウ 伝え合う場における学び合い

発表会が生徒同士の学び合う場となるためには、聞き手である生徒が発表者である生徒に対して、積極的に質問したり、自分の感想や意見を伝えたりすることが大切である。そこで、事前に質問を考えさせたり、意見交換タイムを設けたりした。当日は、多くの質問や感想が出された（写真1参照）。表5は、そのときに出された質問の例である。活発な伝え合いの結果、この発表会において、81%の生徒が友達の発表からとても学べたと答えている（図3参照）。



写真1 質問している様子

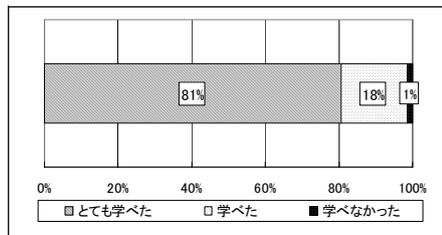


図3 友達の発表から学ぶことができたか

表3 相互評価の視点

- ① 伝えたいことが分かる内容か
- ② 相手を意識した発表の仕方ができているか
- ③ ポスターは工夫されているか
- ④ 聞く態度はよいか

表4 相手グループへの評価

- ・ 実際にやって見せたところがよかった。
- ・ クイズなどがあり、退屈しない工夫がしてあった。
- ・ ポスターのタイトルや色づかいがよかった。
- ・ 相手を見て、間を取りながら話した方がよかった。
- ・ 作業をしている写真を拡大して、提示したところが分かりやすかった。
- ・ うなずいて聞いてくれたり、質問をしてくれたりして嬉しかった。

表5 発表会における質問

- ・ その仕事を体験し今後に生かしたいことは何ですか。
- ・ その仕事の大変なところはどこですか。
- ・ どんな人がその仕事に適しているのですか。
- ・ その職場の働く上での工夫を教えてください。

(6) 授業実践の結果と考察

ア 伝え合おうとする意欲や態度について

表6は、授業で行った伝え合う活動をとっても楽しいと感じた生徒の割合(%)とその主な理由を示したものである。生徒は、いろいろな見方や考え方に気付くことで、伝え合いを楽しんでいることが分かる。プレ発表会においては、とっても楽しいと感じた生徒の割合が減っているが、これは、友達に注目される緊張感や資料を活用しながら分

表6 伝え合う活動をとっても楽しいと感じた生徒の割合(%)とその主な理由

学習活動	ととても楽しかった生徒の割合(%)	その主な理由
情報交換会	70%	・ 他の職場の様子や学んだことが分かった。 ・ 職場によって違う楽しさや苦労があることを友達の意見から学べた。
ポスター編集会議	82%	・ いろいろな人の意見が聞けてよかった。 ・ 友達といろいろな意見を出し合えた。
プレ発表会	50%	・ 改善点を教えてもらって参考になった。 ・ 最初は緊張したけど、友達がちゃんと聞いてくれて嬉しかった。本番では今日よりよくなるように頑張りたい。
発表会 (ポスターセッション)	88%	・ いろいろな職業の大変さや楽しさがよく分かってよかった。 ・ 自分の練習の成果を発揮することができた。 ・ 友達の発表に工夫が見られたり、質問などのやり取りができた。

かりやすく話すことの難しさを感じたためと思われる。しかし、自分たちの発表の改善点が分かったり、友達が真剣に聞いてくれた喜びを味わったりすることで、やる気や自信をもつ生徒も見られた。そして、発表会では、練習の成果を発揮できた充実感を味わったり、伝え合いを楽しんだりして、88%の生徒がととても楽しかったと感じている。

図4は、発表会への意欲を職場体験後と発表会後で比較したものであるが、発表会をともしたいと感じている生徒が、22%から42%へ増加している。これまでの学習を通して、伝え合う楽しさに加え、喜びや充実感を味わうことができたことが、また発表会をしたいという生徒の伝え合いの意欲につながったのではないかと考える。

また、p.91表2に見られるように、ポスター編集会議やプレ発表会を通して、生徒たちは相手に伝わる表現や聞く態度の大切さに気付き、表現方法を工夫したり、よき聞き手になろうと努力したりしていた。そして、伝え合う態度について自分の目標を設定して発表会へ臨み、相手に伝わるように話したり、友達の発表に興味をもち、積極的に質問をしたりする態度が見られた。

イ 自己の生き方への考えの深まりについて

発表会では、多くの生徒がどんな仕事にも働く上での努力や工夫があることや大変だけどやりがいや喜びがあることに気付くことができた。また、凝縮ポートフォリオの記述を見ると、自己の成長に気付いたり、「自分も将来はやりがいのある仕事がしたい。」「自分のなりたい仕事に就けるよう頑張りたい。」など将来へ向けての夢や希望をもつことができたりしていることが分かる(表7参照)。以上のことから、この学習を通して、自己の生き方への考えを深めることができたのではないかと考える。

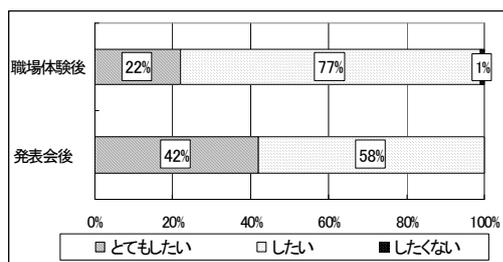


図4 発表会をしたいと思うか

表7 自己の生き方への考えの深まり

(～: 考えや意見 一: 自己の成長への気付きや自信 ≡: 夢や希望)

- ・ 私たちがこういうふうになれるのも、いろいろな仕事があつてこそなので感謝したいと思った。私も子どもたちが大きくなるのを手伝うことのできる仕事に就きたい。
- ・ 地域の方は、とても一生懸命に働いていて、自分もそういうふう頑張らないといけないという気持ちになった。将来のことも真剣に考えるようになってきたので、自分になりたい職業に就けるように努力したい。

(7) 抽出生徒の考えの変容

表8は、2名の生徒を抽出し、働くことに対する考えの変容をまとめたものである。発表会や凝縮ポートフォリオの作成などを通して、見方や考え方が広がったり、深まったりしていることが分かる。そして、伝え合う場を適切に設定したことにより、働く人たちとかかわる体験的な学習が、自己の成長に気付き、生き方を見つめる学習へとつながっていったことが分かる。

表8 抽出生徒の生き方に対する考えの変容 (～: 考えや意見 ー: 自己の成長への気付きや自信 ≡: 夢や希望)

活動	生徒	抽出生徒A 体験した職業 介護士	抽出生徒B 体験した職業 漁師
調査・体験活動		大変だったけど、働いた分、役に立ってるので、 <u>なんか嬉しかった。</u> 	<u>魚を捕るのにもやるべきことがたくさんあることや自然を相手にしているの、常に海のことを考えて仕事をしていることが分かった。</u>
発表会		今まで知らなかった仕事の内容や大変さ、喜びなどを知ることができて、 <u>どの仕事も辛いこともあるけど、やりがいもあるんだ</u> と思った。	<u>働くことは楽しかったり、時には辛いこともあったりするけど、何かをやり遂げたときの喜びは大きいことが分かった。働くことは自分のためにもなっている</u> と思った。
凝縮ポートフォリオの作成		地域の働く人たちの姿を見習って、 <u>自分も大人になったら一生懸命に仕事をしていきたい。</u> また、お年寄りの方や、 <u>いろんな人と接するときには、思いやりをもって接していきたい。</u>	<u>働くには毎日の積み重ねと多くの経験が必要だ</u> ということが分かった。苦しいことや悲しいことがあるとき、 <u>このことを思い出して学校生活に生かしていこう</u> と思う。また、魚が自然の恵みということを知ったので、 <u>好き嫌いをせず、何でも食べれるように努力していこう</u> と思う。
成長への気付き		<u>周囲の人に気を配れるようになった。</u>	<u>人と話すのが少しうまくなった。</u>

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア 伝え合いたいと思う体験に出会わせ、相手を意識した伝え合い方について考えさせる指導を行うことで、自分の思いを相手に伝わるように話そうとしたり、相手の話をもっと聞こうと質問したりするなど、積極的に人とかかわっていこうとする意欲や態度を育成できた。

イ 生徒同士の学び合いの場となるような発表会を設定したことで、いろいろな見方や考え方に気付かせ、働くことや生き方についての考えを深めさせることができた。また、凝縮ポートフォリオの作成を通して、単元全体を振り返らせ、自己の成長に気付かせたり、自己の生き方についての考えを深めさせたりすることができた。

ウ 地域の働く人々との出会いに感謝し、人とかかわるよさを実感できるような単元や伝え合うことの喜びや充実感が味わえるような伝え合う場を設定したことで、これからも伝え合いたいという気持ちを高めることができた。

(2) 今後の課題

ア 伝え合おうとする意欲や態度についての数値的な評価の在り方を探る。

イ 生徒のやる気を引き出し、伝え合う力を高めるための個に応じた支援・指導の在り方を探る。

《引用文献》

(1) 井上 裕吉 『道徳教育』 2005年1月号 明治図書 p.10

《参考文献》

・ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編』 平成10年 東京書籍